

事業コード	H16-建-継-1			区 分	国庫補助・県単独
事業名	街路事業			部 局 名	建設交通部
事業種別	一種改築(現道拡幅)			課室班名	都市計画課 街路班 (tel) 2444
路線名等	千秋広面線			担当課長名	本田 武志
箇所名	秋田市手形			担当者名	技師 目黒 寛
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり	
	施策コード	1	施策名	四季を通じて快適な生活環境の確保	
	目標コード	3	施策目標名	都市計画道路整備率	

1. 事業の概要

事業期間	H 8 ~ H 19 (12年)	総事業費	36億円	国庫補助率	0.55		
事業規模	延長L = 540m 幅員(構成)W = 25.0m(4.5-0.5-3.25*2-2.0-3.25*2-0.5-4.5)						
事業の立案に至る背景	本路線は、JR奥羽本線により分断された中心市街地を東西に連絡する主要幹線道路であるが、中心市街地へ流入する交通により慢性的な渋滞が発生している。そのため本路線を整備し、中心市街地の交通混雑の緩和を図る。						
事業目的	立体交差 中心市街地の活性化(駅東西のアクセス性改善) 交通混雑の緩和(主要渋滞ポイントの解消) 市町村合併支援 第3次救急医療施設へのアクセス性改善 都心環状道路の整備						
事業費内訳 事業内容	(単位:千円)						
		全体	H14年度迄	H15年度	H16年度	H17年度以降	
事業費内訳 事業内容	事業費	3,644,000	1,840,950	60,000	140,000	1,603,050	
	経費内訳	工事費	1,797,524	246,913	56,110	13,851	1,480,650
		用補費	1,497,535	1,358,866	0	118,649	20,000
		その他	348,941	235,151	3,890	7,500	102,400
	財源内訳	国庫補助	1,957,928	966,250	33,000	77,000	881,678
		県債	1,390,000	724,000	22,000	51,000	593,000
		その他	218,640	110,457	3,600	8,400	96,183
財源内訳	一般財源	77,432	40,243	1,400	3,600	32,189	
事業内容		詳細設計 用地測量 用地補償	橋梁下部工	用地補償	橋梁上下部工		
事業推進上の課題							
上位計画での位置付け	あきた21総合計画における施策「快適で安全な生活を支える環境づくり」に位置づけられる事業 平成16年4月の秋田都市計画区域マスタープランにおいておおむね10年以内に整備を予定する主要な施設に位置づけられている。						
関連プロジェクト等	秋田中央道路整備事業 秋田駅東第三地区土地区画整理事業 秋田駅西北地区土地区画整理事業						
事業を取り巻く情勢の変化	現在同市では、秋田駅東地区の急速な発展や秋田自動車道秋田中央ICの供用などにより、JR秋田駅東西間における交通渋滞が著しく、将来においても深刻な交通混雑が予想されている。						
事業効果把握の手法及び効果	指標名	都市計画道路整備率			データ等の出典	都市計画年報	
	指標の種類	成果指標 (業績指標)			把握の時期	翌年度年 7月	
	指標式	= 整備済延長 / 都市計画決定延長					
	目標値 a	49					
	実績値 b	48					
達成率 b/a	98%						

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	指摘事項への対応			

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価点
必 要 性	千秋トンネル交差点は第4次主要渋滞ポイントとなっており、特に渋滞が著しい手形陸橋から秋田駅・千秋トンネル方面の混雑を緩和するためにも本路線の整備は必要である。 秋田中央道路、川尻広面線（明田地下道）が考えられるがと合わせた3路線で鉄道断面の容量を確保する計画となっているが、千秋広面線の未整備により他2路線へ大きな負荷がかかることが予想されることから、未整備による影響は大きいと考える。	28点
緊 急 性	「あきた21総合計画」における快適で安全な生活を支える環境づくりに資する事業であるほか、「秋田都市計画区域マスタープラン」の中でもおおむね10年以内に整備すべき路線として位置づけられている。 市町村合併支援道路の指定を受けている。 接続する明田外旭川線（区画整理事業で整備中）や秋田中央道路（北側を整備中）と併せて整備することでより大きな効果を発揮する。 千秋トンネル交差点は第4次主要渋滞ポイントとなっており、特に渋滞が著しい手形陸橋から秋田駅・千秋トンネル方面の混雑を緩和するためにも本路線の整備は必要である。	13点
有 効 性	第二次緊急輸送道路の指定路線であるほか、第3次救急医療施設へのアクセス道路としての活用も見込まれ、防災計画上の重要路線である。 秋田市の東西を連絡する幹線道路であり、交通量も多いことから有効性は高い。	14点
効 率 性	事業の費用便益比は3.0以上あり効率性は高い。 計画交通量は23,400台/日と大きい。 極力既存の橋梁部材を活用すること等でコストの縮減を実現している。	18点
熟 度	用地補償交渉が難航し、事業の進捗率が49%にとどまっている（残物件は裁判申請中の1件のみ）。 橋梁下部工10基が既に完成しており、事業の推進が望まれる。	8点
判 定	ランク（ ○ ） 主要渋滞ポイントの解消に資するほか、救急医療施設へのアクセス道路・市町村合併支援道路にも位置づけられており、必要性・有効性が高いことから引き続き実施すべき事業である。	81点
総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

難航している用地取得問題の早期解決を図り、着実に事業を推進する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価および対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所 (継続箇所) 事業コード (H16 - 建 - 継 - 1) 箇所名 (千秋広面線)

適用事業名 (街路事業) (通常事業・交付金事業・地方特定事業・県単独事業)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性 (35点)	交通状況の変化 (バイパス・新設路線については、競合する路線を現況道路とみなす)				
	現況道路の交通量変動 (自動車・歩行者・自転車交通量)	増加している (5%以上)	15	15	
		現状維持 (±5%未満)	12		
		5%以上10%未満の減少	10		
		10%以上20%未満の減少	8		
		20%以上の減少	5		
	今後の進捗の見込み				
	事業執行上の課題の有無	課題もなく順調な進捗が見込まれる	10	5	
		課題はあるが事業の進捗に大きな影響はない	8		
		将来的な課題はあるが当面の進捗に影響はない	5		
課題解決の見込みがなく、停滞している		0			
事業中止又は休止による影響					
事業を中止・休止した場合の成果に対する影響	代替手段がなく、影響が大きい	10	8		
	代替手段はあるが、影響が大きい	8			
	代替手段があり、影響が小さい	3			
計			35	28	
緊急性 (15点)	関連事業の有無				
	各種プロジェクト支援 (県の主要プロジェクト・地域振興プロジェクト)	有り	1	1	
		なし	0		
	大規模イベント支援 (国体・インターハイ・万博など)	有り	1	1	
		なし	0		
	新規整備の公共公益施設アクセス (市町村役場・病院・学校・公民館など)	有り	1	0	
		なし	0		
	他公共事業関連 (街路事業以外の事業支援)	有り	1	1	
		なし	0		
	住宅宅地開発 (300戸以上又は16ha以上)の連絡道路	有り	1	0	
なし		0			
事業を取り巻く周辺状況(需要)の変化					
現況に対する将来交通量	増加する(5%以上)	10	10		
	変化なし (±5%未満)	8			
	5%以上10%未満の減少	7			
	10%以上20%未満の減少	5			
	20%以上の減少	3			
計			15	13	
有効性 (15点)	物流の高度化と交流の円滑化への貢献度				
	高速ICアクセス 港湾・空港アクセス 新幹線駅又は特急停車駅等 ⁽¹⁾ へのアクセス 特急停車駅又は平均乗降客2000人/日以上の駅	該当項目2以上	5	5	
		該当項目1	3		
		該当項目0	0		
	主要な観光地へのアクセス 駅前広場の造成 広域道路整備計画			5	
	市街地の活性化とまちづくりへの貢献度				
	DID区域内の事業 市街地再開発・区画整理等との連携 電線類地中化計画 景観や中心市街地の特色あるまちづくりに資する事業 バリアフリー 周辺景観との調和 道路緑化の推進 3次医療施設・2次医療施設へのアクセス	該当項目2以上	5	5	
該当項目1		4			
該当項目0		2			
		0			
県施策目標への貢献度					
都市計画道路整備率の向上	平成17年度末までに供用予定	5	4	平成17年度 あきた21総合計画中間年	
	平成22年度末までに供用予定	4		平成22年度 あきた21総合計画目標年	
	平成23年度末以降供用予定	3			
計			15	14	

評価種別 新規箇所 継続箇所 事業コード (H16 - 建 - 継 - 1) 箇所名 (千秋広面線)

適用事業名 (街路事業)
(通常事業・交付金事業・地方特定事業・県単独事業)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
効率性 (20点)	当初計画と比べた事業費の増減	都市計画事業認可時の全体事業費との増減	減少している	10	10	全体事業費の増減率
			10%未満の増加	8		都市計画法第59条又は第63条による
			10%以上30%未満の増加	7		
			30%以上50%未満の増加	3		
			50%以上の増加	0		
			費用便益比			
			2.0以上	5	5	
			1.5以上2.0未満	4		
			1.0以上1.5未満	3		
	コスト縮減・リサイクル推進貢献度	廃棄物の発生抑制、再資源化及び適正処理 リサイクル製品、再生骨材等の使用 新工法・新技術の採用 その他(具体的事例)	該当項目2以上	5	3	
			該当項目1	3		
			該当項目0	0		
計			20	18		
熟度 (15点)	都市計画事業認可に対する事業の進捗状況	事業認可書の予算計画に対する執行状況	計画以上に進捗している	10	8	
			計画に対して80%以上100%未満	8		
			計画に対して60%以上80%未満	6		
			計画に対して50%以上60%未満	4		
			計画に対して50%未満	2		
	地域の協体制	事業推進のための各種協議会等が設置されている 地域住民の取り組みが積極的である 市町村自ら積極的に用地交渉など事業の推進に関与している 買い取り請求が複数ある 裁決申請(予定を含む)物件がない	該当項目3以上	5	0	同盟会、協議会、連絡会議等
			該当項目2	4		各種説明会等の出席率が高い
			該当項目1	3		
			該当項目0	0		
計			15	8	都市計画法第68条による	
合計			100	81		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	81	
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		